

茶カブギ之式・風炉(一)

〔監修〕千宗室

「茶カブギ之式」は八畳の席を正式として、客に定数はありませんが、普通は四人とし、点茶役一人、それに「執筆」と称して記録を取る役が一人の計六人でいたします。

この式は四人の客が最初に試み茶を二種いただき、つづいて本茶ほんちやと称する三種の茶を喫み、判断します。本茶の三種類には、試み茶二種と、別の濃茶一種が用意されています。

記録は、当日すべての茶を喫み当てた客への褒美として与えられます。四人とも当たらなかつた場合は上客がこれを受けます。

この式を一回行うことを「一席」といっております。

床には掛物を掛け、花入には花を入れて、諸荘もろかきりとします1。

席中の客から見やすいところに看板を掛けます2。看板には胡粉こふんで当日の茶師の名を二段に書き、三段目に客と書きます。茶師の名の右肩には茶銘を小さな字で書きますが、客の「ふせ茶」の茶銘は書きません。

2 席中に茶師の名を書いた看板を掛ける



1 床に掛物を掛け、花入に花を入れる



茶カブキ用小棗こなづめ五個のうち二個には試み茶を入れ、甲にそれぞれ茶師の名を竹田・上林などと書き、本茶を入れるあとの三個の小棗の蓋裏に竹田・上林・客と茶師の名を書いて、それぞれの濃茶を同分量入れておきます④。

そして茶カブキ用長盆ながばんの手前に、茶師の名を甲書きした試み茶用の小棗を、看板上段の茶師の名(竹田)の方を右に、左には看板下段の茶師の名(上林)の小棗を置きます。本茶の小棗は正面を向こうにして、右から竹田・上林・客の順に背中合せにのせて④、茶カブキ用の掛帛紗かぶくさ⑤をその上に掛けます。この帛紗は紅絹の裂です。

茶カブキ之式

茶カブキといえますのは、茶の湯がまだ道として成り立つ前の、古く南北朝時代、すでに茶の「本」「非」をきき当てることによつて、賭けごとをした闘茶とうちやに源をおいた名称で、「茶歌舞伎」とも書かれたものであります。

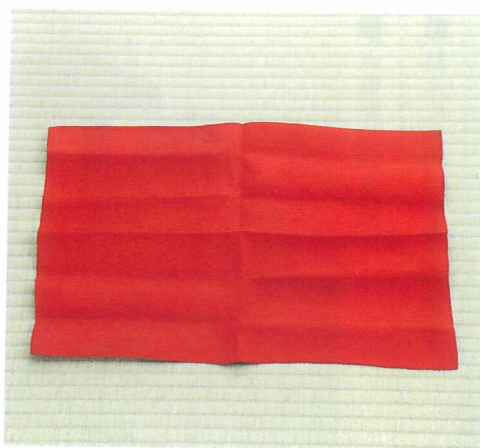
この闘茶はある意味、茶の湯発祥の先駆をなしたともいえるのですが、これは本茶すなわち榎尾産えごのおの茶とその他の地で出来た茶、すなわち非茶とをきき当てることで、五十服、百服と喫み競べて、物品を賭け、夜を徹して遊興の限りをつくしたものであります。こうした怠惰の風を一掃して、茶人として当然茶の鑑別は出来なければなりませんから、味覚修練のために組み立てられたのが、この「茶カブキ之式」であります。茶カブキ之式には無学宗衍むがくそうえんが「于^レ古于^レ今裁断^二舌頭^一始可^レ知^二真味^一」と偈頌げじゆされています。私たちは常に甘い、辛い、熱い、冷たいなどと、舌先の味覚により判断していますが、これは仮の判断で、



3 小棗に試み茶と本茶を同分量入れる



4 長盆手前に試み茶、奥に本茶をのせる



5 茶カブキ用掛帛紗を準備する

本来の味はその舌頭を截ち切つてこそ、始めて真の味がわかる
ものであると、禪的な立場から現実社会に示唆を加えて説いて
おられるのであります。

道具畳には風炉を定座に据え、釜を懸け、棚(今回は鵬雲斎大宗匠好竹寿棚)を据えて、準備した長盆を天板に荘り**6**、地板には水指を荘ります**7**。二重棚の場合は中棚に薄茶器を荘り置きます。水屋には点前用具として、茶巾、茶筌、茶杓を仕組んだ茶碗**8**と、柄杓、蓋置を仕組んだ建水**9**、水次**10**を用意します。

おかけます
大折据を三枚用意します**11**。約十五センチ四方の大きさで、各々の上に一、二、三と書かれています。それを三、二、一の順に、一が上になるように重ねておきます。

つぎに名乗紙なりのがみといい、美濃紙みのを縦約九センチ、横約六センチ位の大きさに切り、縦三つになるように上端を少し残して銕を入れます。その三片の右端より一片に竹田、二片に上林、三片に客と上の方に書き、その下に客の名前を書きます**12**。この四枚を正客が上にな



6 棚の天板に長盆を荘る

8 茶碗に茶巾、茶筌、茶杓を仕組む



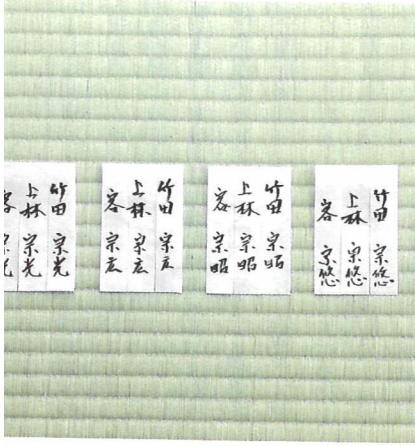
7 点前座の荘り付け

9 建水に柄杓、蓋置を仕組む



るように重ねて、その右の方、上端をこよりで綴じます¹³。これを大折据の上のせます¹⁴。

12 名乗紙四枚。竹田、上林、客と書く



13 四枚重ねて右上端をこよりで綴じる

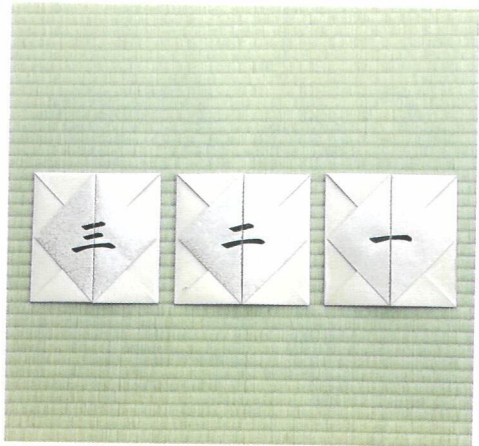


10 水次には茶巾をのせておく



11 大折据三枚。一、二、三と書いてある

14 名乗紙を大折据の上にのせる



つぎに文台ぶんだいの上に、奉書(二枚程)をわさを左にして二つに折って**15**、その上に硯箱をのせておきます**16**。

席中**17**、水屋の準備が出来ると、六人は水屋で互礼をして**18**、亭主と執筆者は帛紗を腰につけます。客は扇子を持つて、正客から順に席入りをします。

正客は次客に「お先に」と次礼つぎれいをして茶道口に座り、扇子を膝前に置き**19**、一礼をして**20**、扇子を右手に持って右膝を立てて立ち、右足から席に入って**21**、かぎ畳を右足で越し**22**、斜めに進んで、正客の座に右足から入って**23**、下座の方へ向いて**24**回り、半畳の中央に座り、扇子を要かなめが上座になるよう後ろに置き、連客の席入りを待ちます。



15 二つに折った奉書を文台にのせる



16 奉書の上に硯箱をのせる



17 席中の荘り付け



18 六人は水屋で互礼をする



22 かぎ畳を右足で越す

19 正客は、茶道口で扇子を膝前に置く



20 一礼をする



23 正客の座に右足から入る



24 下座の方に向けて回り、座る

21 右膝から立ち、右足で席に入る



次客は三客に次礼をして、茶道口に座り、扇子を膝前に置いて一礼をし、正客と同じく右膝を立てて立ち、茶道口、かぎ畳を右足で越します**25**。斜めに進んで、自席に右足から入り**26**、上座の方に向けて**27**回り、座って、扇子を要が下座になるように後ろに置いて、三客・四客の席入りを待ちます。

三客も四客に次礼をして茶道口に座り、一礼をして扇子を持って右膝を立てて**28**立ち、まっすぐ進み**29**、三客の座に進んで**30**座り、扇子を次客と同じように置きます。四客も三客と同様に自席に進みます**31**。

亭主は四客が席入りをすると、茶道口に座ります**32**。

四客は自席に座ると、扇子を三客と同じく後ろに置いて、亭主の迎付けを待ちます**33**。



25 次客は茶道口、かぎ畳を右足で越す

27 上座の方に向けて回り、座る



26 次客の座へ右足から入る

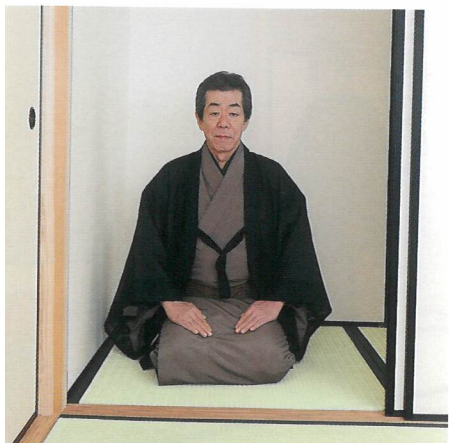
28 三客も茶道口で一礼し、右膝から立つ





31 四客も三客と同様に自席に進む

29 右足で席に入り、まつすぐ進む



32 この頃、亭主は茶道口に座る

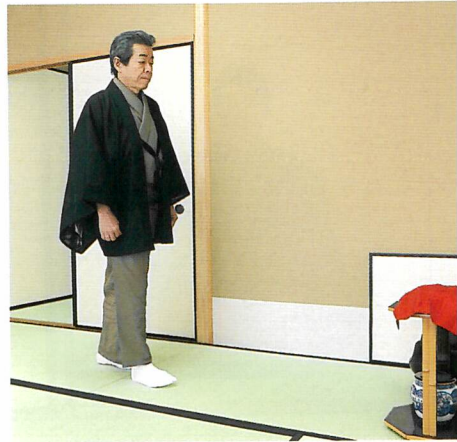
30 三客の座に進んで座る



33 四客まで着座し、亭主の迎付けを待つ

四客が座ると、茶道口の亭主は右膝を立てて立ち、右足から席に入って、棚正面に進んで**34**座り、長盆を掛けてある掛帛紗の両端中央を持って取り**35**、二つに折って**36**、それを向こうに折り、四つ折りにします**37**。持ちかえて縦にし**38**、右手で右側を三分の一向こうに折り、左手で左側を三分の一向こうに折って**39**、三つ折りにし、左手で左膝脇に縦に置きます**40**。

長盆の向こう側に並べてある本茶の入った小棗を両手で同時に取り**41**、二、三度置き換えて**42**、長盆の手前にある、試み茶の入った竹田の小棗を右手で取り**43**、棚正面に置きます。



34 亭主は席に入って棚正面に進む



36 二つ折りにする



35 掛帛紗の両端中央を持って取る



37 向こうに折って四つ折りにする



41 本茶の入った小棗を両手で取り

38 縦にし、右側三分の一を向こうに折る



42 二、三度置き換える

39 左側三分の一も折り、三つ折りにする



43 試み茶の小棗(竹田)を取り、棚正面へ

40 左手で左膝脇に縦に置く



つぎに左手で左膝脇の掛帛紗を取り
44、右手に持ちかえて**45**、左膝を立て
 て**46**立ち、茶道口踏込畳までさがり**47**、
 客の方に斜めに向いて**48****49**座り、掛帛
 紗を右膝脇に置いて**50**、迎付けの一礼
 をし**51**、客一同総礼をします**52**。
 亭主は右膝脇の掛帛紗を右手で持ち、
 左膝を立てて**53**立ち、水屋にさがりま
 す。



46 左膝を立てて立つ



44 左手で左膝脇の掛帛紗を取る



47 茶道口踏込畳までさがる



45 右手に持ちかえる



51 亭主は迎付けの一礼をし

48 客の方に斜めに向くように回る



52 一同総礼をする

49 客の方に向いて、座る



53 掛帛紗を右手で持ち、左膝から立つ

50 掛帛紗を右膝脇に置く



つぎに亭主は、名乗紙をのせた大折据を両手で持つて茶道口に座り**54**、大折据を右手向こう、左手手前と持つて二度回し**55**、正面を正して**56**、右膝を立てて**57**立ち、かぎ畳を進んで**58**、正客の正面に座り、両手で縁外正面に置いて**59**、ひと膝下座を向いて左膝を立てて**60**立ち、水屋にさがります。

正客は亭主が立つと、大折据を両手で持つて**61**上座にあずかります**62**。



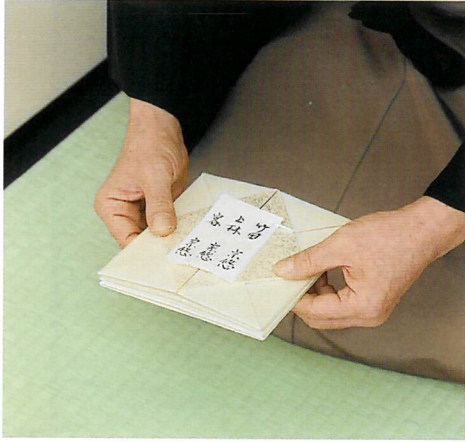
54 大折据を両手で持つて茶道口に座る

56 大折据の正面を正す



55 右手向こう、左手手前と持つて回し

57 右膝を立てて立つ





61 正客は大折据を両手で持ち

58 かぎ畳を右足で越し、正客の前に進む



62 上座にあずかる

59 大折据を正客の正面に両手で置く



60 ひと膝下座を向き、左膝から立つ



解説／業 躰 部
 正客 泉本 宗悠
 次客 五明 宗昭
 三客 角 宗広
 四客 志村 宗光
 亭主 白波瀬 宗幸
 執筆 中島 宗基

前号まで

亭主は名乗紙をのせた大折据を正客の正面に置き、水屋にさがります。亭主がさがると、正客は大折据を両手で取って、上座にあずかります。

亭主は茶碗を持って右足から席に入り

1、点前座に進んで座り、茶碗を左手で勝手付に仮置きします2。

1 亭主は茶碗を持って席に入る



2 茶碗を左手で勝手付に仮置きする



茶カブキ之式・風炉(二)

〔監修〕千宗室

七事式の解説◆ちやかぶきのしぎ

全六回・次号予定は「茶カブキ之式・風炉(三)」

つぎに亭主は棚正面の棗を右手で少し右寄りに置きかえ**3**、勝手付に仮置きした茶碗を左手で取り、右手で右横を持ち、左手で左横を持ちかえて、棗の左に置き合わせます**4**。水屋にさがって、建水運び出し、点前座に進んで座ります。

亭主が建水を持って席に入ると、執筆者は文台ぶんたいを持って茶道口に座り、膝前に文台を置いて控えます**5**。

点前座の亭主は、建水上の柄杓を取って構え**6**、建水の中の蓋置を右手で取って、定座に置き、柄杓を蓋置に引いて、亭主・執筆者・連客は総礼をします**7****8**。

総礼がすむと、茶道口に控えていた執筆者は文台を両手で持つて席に入り**9**、通い畳の中央に座り**10**、文台を膝前正面に置いて**11**、手は組まずに、正客から「本茶所望」の挨拶があるまで、そのまま控えます**12**。



3 棚正面の棗を右寄りに置きかえる



4 茶碗を三手で棗と置き合わせる



5 建水を持ち出し、執筆者は控えておく



6 柄杓を取り、構える



10 通い畳の中央に座る



11 文台を膝前正面に置く



12 手は組まずに、そのまま控えている

7 亭主が柄杓を蓋置に引くと、亭主・執筆者・連客は総礼をする



9 執筆者は文台を両手で持ち、席に入る



亭主は総礼のあと、建水を進めて**13**、居ずまいを正します。柵前の茶碗を右**14**、左、右の三手で膝前少し向こうに置き**15**、棗を右手で茶碗と膝の間に置き**16**、腰の帛紗を取り、草の四方捌きさばをして**17****18**、左手で棗を取り、棗の甲を「り」の字なりに拭き清め**19**、柵の前、中心を割って、左寄りに置きます**20**。つづいて帛紗を捌き直して、茶杓を取り、拭き清めて、棗の上中央に置き**21**、茶筌を取って、柵の前右寄りに棗と置き合わせます**22**。



13 亭主は建水を進め、居ずまいを正す

15 左手で扱い、右手で少し向こうに置く



14 柵前の茶碗を右手で取り

16 棗を右手で茶碗と膝の間に置く





20 棗を棚の前左寄りに置く



21 茶杓を拭き清め、棗の上中央に置く



22 茶筌を棗と置き合わせる



17 18 腰の帛紗を取り、草の四方捌きをする



19 棗の甲を「り」の字なりに拭き清める

つづいて、水指の蓋が塗蓋の場合は、帛紗で蓋の摘みの前を「二」の字なりに拭き清め**23**、茶碗を手前に寄せて**24**、茶巾を水指の蓋の上に置きます**25**。男子は帛紗を腰につけて柄杓を取り、構えて、素手で釜の蓋を取り**26**、蓋置の上に置きます**27**（女子、または男子でも釜の蓋の摘みが南鏡、共蓋の場合は帛紗扱いで釜の蓋を取り、蓋置の上に置き、その帛紗を建水の下座に置きます）。柄杓を右手に持ち、湯を汲んで茶碗に入れ**28**、置柄杓で釜に置き、茶筴を取って、茶筴通し（二度上げの三度打ち）をし**29**、茶筴を元に戻して、茶碗を右手で取り、左手で湯を建水にあけます**30**。茶巾を右手で取って、茶碗を左膝脇で拭き清め**31**、茶碗を膝前に置いて、茶巾を釜の蓋の上に置きます**32**。



23 帛紗で水指の塗蓋を拭き清める



24 茶碗を手前に寄せる



25 茶巾を水指の蓋の上に置く



26 柄杓を構え、釜の蓋を取り



30 茶碗の湯を建水にあける

27 蓋置の上に置く



31 茶巾で茶碗を拭き清める

28 柄杓で湯を汲み、茶碗に入れる



32 茶巾を釜の蓋の上に置く

29 茶筥通しをする



つぎに茶杓を右手で取り、棗を左手で取って**33**、茶碗の左横で棗の蓋を取り、その蓋を右膝前に置いて**34**、濃茶を三杓ほどすくって茶碗に入れ**35**、あとは茶杓でかき出します**36**。茶杓を茶碗にあずけて、棗の口のかき出したところを指先で清め**37**、その指先を懐中の懐紙で清めて、棗の蓋を閉め、棗を元の位置に置き、茶杓を右手で取り、扱って持ちかえ、茶を捌いて、茶碗の口造りで軽く、心して打ちます**38**。

茶杓を棗の上に戻し**39**、水指の蓋の摘みを右手で取り**40**、左手で左横を持ち**41**、左手の上を右手に持ちかえて水指の左側に立てかけます**42**。



33 右手に茶杓を持ち、左手で棗を取る

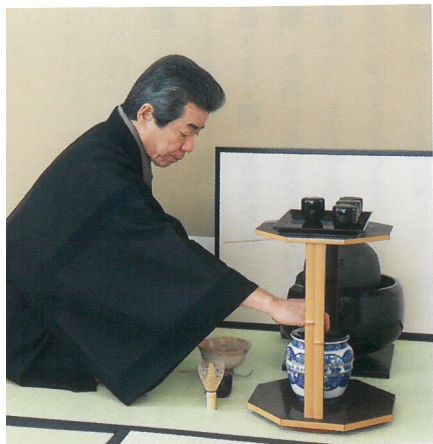
35 濃茶を三杓ほどすくって茶碗に入れ



34 棗の蓋を取り、右膝前に置く

36 あとは茶杓でかき出す





40 水指の蓋の摘みを右手で取り

37 棗の口を指先で清める



41 左手で左横を持ち

38 茶を捌き、茶杓を口造りで軽く打つ



42 右手で水指の左側に立てかける

39 茶杓を棗の上に戻す



つづいて、釜の上の柄杓を取柄杓で取り、扱って水を汲み**43**、釜に一杓入れ**44**、湯を汲んで茶碗に適量入れ**45**、残りを釜に戻して、柄杓を切柄杓で釜に置きます**46**。茶筌を取って濃茶を練り**47**、茶碗に茶筌をあずけたまま、湯を汲んで、左手で茶筌を持ち、茶筌の穂先に湯をそそぐようにして茶碗に入れ**48**、残りを釜に戻して、置柄杓で釜に置きます。茶筌を取って濃茶を練り上げ、茶筌を棗の右に置き合わせ、茶碗を右手で取って左掌にのせ、正面を正して、定座に出します**49**。

正客は茶碗が出されると、右膝を立てて**50**立ち、茶碗を取りに出て座り、右手で茶碗を取り**51**、左掌にのせて右手を添えて持ち、自席に左足から入って座り、茶碗を縁内、次客との間に置くと、連客一同は総礼をします**52**。



43 柄杓を取り、扱って水を汲み



45 湯を汲んで茶碗に適量入れる



44 釜に一杓入れる



46 柄杓を切柄杓で釜に置く



50 正客は右膝を立てて立つ

47 茶筥を取り、濃茶を練る



51 茶碗を取り、左掌にのせて自席に戻る

48 穂先にそそぐように湯を入れる



52 茶碗が縁内に置かれると、連客は総礼

49 茶碗の正面を正して定座に出す



正客が濃茶を一啜すると**53**、亭主は服加減をたずね、正客はこれを受けます**54**。正客は喫み終わると茶碗の喫み口を拭き清めて、次客に茶碗を送ります。亭主は服加減をうかがうと、棗の上の茶杓を取り、水指の上、右側に仮置きして**55**、棚前にある一服目の試み茶(竹田)の棗を右手で取って、元のように棚の上、茶カブキ盆の右に戻し**56**、その手で左側の試み茶(上林)の棗を取り**57**、先の棗のあとに置き、水指の上の茶杓を取り、棗の上のせ**58**、茶碗が出合いで返されるのを待ちます。連客の動作は、まず濃茶をいただくときには、試み茶、本茶ともに正客の一啜で次客は三客に次礼をするように、「お先に」は各服ごとにいたします。茶碗の拝見はいたしません。茶碗を出合いで返すのは、試み茶一服目、本茶一服目、本茶三服目(白湯の場合も)のときです。



53 正客は濃茶を一啜し、次客は次礼する
55 茶杓を水指の上、右側に仮置きする



54 亭主は正客に服加減をたずねる
56 試み茶一服目(竹田)の棗を盆に戻す





59 末客の四客まで順に濃茶を喫む



60 喫み終わると、茶碗を膝前に置く



61 正客との出合いで、茶碗を正客に渡す

57 左の試み茶(上林)の棗を盆から取る



58 水指上の茶杓を取り、棗の上のにせる



こうして客は順に茶をいただき59、末客の四客は茶を喫み終わると、茶碗を膝前に置きます60。このとき、正客は茶碗の拝見を請うことはありません。四客は茶碗の喫み口を拭き清め、茶碗の正面を正して、茶碗を持って立ち、正客との出合いで、茶碗の正面を正して正客に渡し61、自席に戻ります。

正客は茶碗の正面を正して、定座に返し**62**、自席に戻ります。亭主は返された茶碗を膝前に取り込み**63**、主客総礼をします**64**。

亭主は湯を汲んで茶碗に入れ、建水にあけて**65**、茶碗を膝前に置き、もう一度湯を汲んで茶碗に入れます**66**。この二度目の湯で茶碗をこすすぎして**67**、湯を建水にあけて**68**、茶巾を取り、茶碗を拭き清め**69**、茶巾を元に戻します。



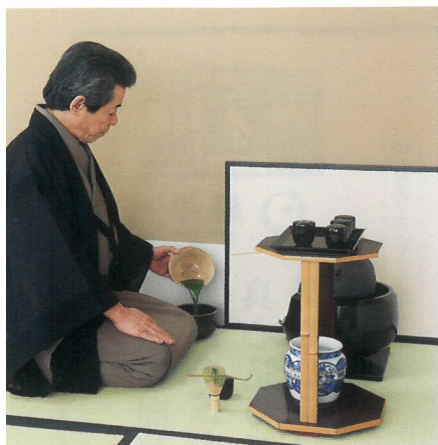
62 正客は茶碗の正面を正し、定座に返す

63 亭主は茶碗を膝前に取り込む



64 主客総礼をする





68 茶碗の湯を建水にあける



65 亭主は湯を茶碗に入れ、建水にあける



69 茶巾を取り、茶碗を拭き清める



66 もう一度湯を汲んで茶碗に入れる



67 茶碗をこすすぎする

前号まで

試み茶の二服目の茶碗が戻ると、亭主は湯で二度茶碗をすすぎ、茶巾で拭き清めて、茶巾を釜の蓋に戻します。

亭主は右手で茶杓、左手で棗と取り**1**、棗の蓋を取って右膝前に置き、一服目の試み茶と同様に茶を茶碗に入れ**2**、棗、茶杓と元の位置に戻します。なお、試み茶の二服目と本茶の棗は帛紗で清めることはありません。

1 亭主は茶杓、棗と取る



2 試み茶二服目の茶を茶碗に入れる



茶カブキ之式・風炉 (三)

〔監修〕千宗室

七事式の解説◆ちやかぶきのしき

全六回・次号予定は「茶カブキ之式・風炉(四)」

亭主は茶碗に湯を入れ**3**、濃茶を練り
4、茶碗の正面を正して定座に出しま
す**5**。

正客は茶碗を取りに出て**6**、自席に戻
り、次客との間に茶碗を置き、次礼を
して**7**、茶をいただきます。亭主は正
客の一啜で服加減をたずね、正客はこ
れを受けます**8**。試み茶の二服目は、
次礼をして順次いただきます**9**。

亭主は服加減をたずねると、釜の蓋上
から茶巾を取り**10**、左掌指先に打ち返
してのせ、両手で茶巾の端を取って、
広げ**11**、それを四つ折りにして、建水
の上で絞ります**12**。



3 茶碗に湯を入れる



4 濃茶を練る



5 茶碗の正面を正して定座に出す



6 正客は茶碗を取りに出る



10 亭主は釜の蓋上から茶巾を取る



7 茶碗を次客との間に置き、次礼をする



11 両手で茶巾の端を取って広げる



8 亭主は正客に服加減をたずねる



12 四つ折りにして建水の上で絞る



9 順次、試み茶二服目の茶をいただく

つづいて、絞った茶巾の両角(耳ともいう)を持って左右に広げ**13**、両手で上のほうを持ち**14**、上から三分の一を向こうへ折り**15**、さらに向こうへ折って三つ折りにします**16**。右手を上にして茶巾を縦にし、左手の親指と人差し指で中ほどを持って半分に折り**17**、端をそろえて張り**18**、さらに下へ二つに折って**19**四つ折りにし**20**、最後に右を三分の一折って**21**、茶巾を右手に持ち、左親指を抜いて、釜の蓋の上に戻します**22**。



13 茶巾の両角を持って左右に広げる



14 しわをのばして、上のほうを持ち



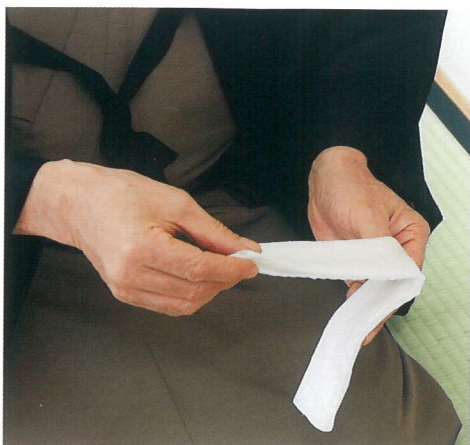
15 上から三分の一を向こうへ折り



16 さらに向こうへ折り、三つ折りにする



20 四つ折りにする



17 茶巾を半分に折り



21 右を三分の一折る



18 端をそろえて張る



22 茶巾を右手で釜の蓋の上に戻す



19 さらに下へ二つに折り

このとき、正客は「ご本茶を」と所望
 します**23**。女子、または男子でも釜の
 蓋の摘みつまみが南鏡なんきょう、また共蓋ともがきで帛紗びさ扱い
 で釜の蓋を取ったときは、茶巾を釜の
 蓋に置いて帛紗を腰につけると、正客
 は「ご本茶を」と所望します。

亭主はこれを受けて、茶筌ちやせんを建水の右
 肩に仮置きし**24**、つぎに茶杓ちやくを水指の
 上、右側に仮置きして**25**、試み茶の二
 服目の棗ざうを長盆ながひらの元の位置に戻します
26。つづいて棚正面に寄り、両手で長
 盆を取り**27**、正面で右手向こう角、左
 手手前角と持って**28**回し**29**、もう一度
 右手向こう角、左手手前角と持って**30**
 回し、本茶の棗を正面にして、右手真
 横、左手真横と持って**31**、棚上に戻し
 ます**32**。



23 正客は「ご本茶を」と所望する

25 茶杓を水指の上、右側に仮置きする



24 亭主は茶筌を建水右肩に仮置きする

26 試み茶の二服目の棗を長盆に戻す

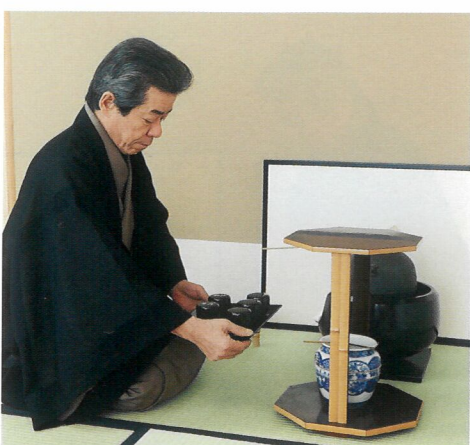




27 棚正面に寄り、両手で長盆を取る
30 もう一度角を持つて



28 右手向こう角、左手手前角と持つて
31 回し、右手真横、左手真横と持つ



29 回す
32 長盆を棚上に戻す



亭主は居前に戻って、長盆から本茶の右端の棗を取り**33**、棚の中心左寄りにおろして置き**34**、水指上の茶杓を取って棗にのせ**35**、建水右肩の茶筌を棗の右に置き合わせて**36**、茶碗が返されるのを待ちます。

正客は本茶の所望をすると、次客に「お先に」と次礼をして**37**、大折据の上のせてある名乗紙を取り**38**、名乗紙を綴じているこよりをゆるめて、一番上の自分の名乗紙を取り、あとの名乗紙は次客に縁内へりうちで送り、懐中している帛紗を取り出して左掌にのせ、その帛紗に自分の名乗紙を挟み、右膝頭、縁内畳目五つあけて置きます。

試み茶の二服目が順次喫のみ回され、喫み終わると次客以下も次礼をして**39**、各々正客と同じように自分の名乗紙を取り、八つ折りの帛紗を二つ広げて、のせて**40** 挟み**41**、右膝頭、縁内畳目五つあけて置きます**42**。



33 点前座に戻り、本茶右端の棗を取る



35 水指上の茶杓を取り、棗にのせる



34 棚の中心左寄りに置く



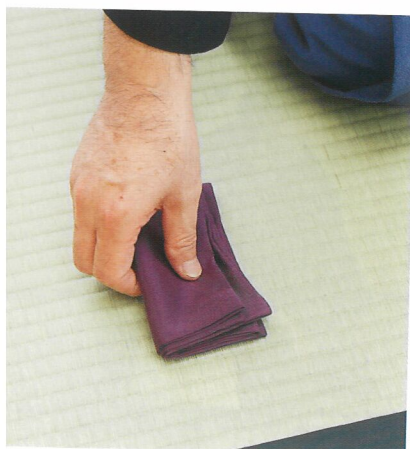
36 茶筌を棗の右に置き合わせる



37 正客は次客に「お先に」と次礼をする
40 自分の名乗紙を取り、帛紗にのせて



38 大折据の上にある名乗紙を取る
41 挟む



39 次客は三客に次礼をする
42 右膝頭、縁内畳目五つあけて置く



執筆者は、正客の本茶所望の挨拶で、奉書の上の硯箱を両手で持ち**43**、文台ぶんたいの右横におろし**44**、蓋を取って文台の左横に置き**45**、二つ折りの奉書を右から左へ広げます**46**。執筆者は墨をすり**47**、すり終わると、奉書に「茶カフキ之記」と題字を書きます**48**。その間に二服目の試み茶をいただいた四客は茶碗を定座に返します**49**。執筆者は、つづいて上の方に連客の名前を正客から順に並べて書き、名前のあとにその式が行われた年月日**50**、場所を書き、次の行の下段に「点茶」と書き、その下に亭主の名前を、その横に「執筆」と書いて、下に執筆者の名前を書きます**51**。なお、名前の文字はすべて大きく書きます。そして題字の下段に戻り、次の行に小さめの字で茶銘を初昔、後昔、客と行をかえるごとに一字ずつ下げて三行に書き、書き終わると奉書を二つに折ります**52**。

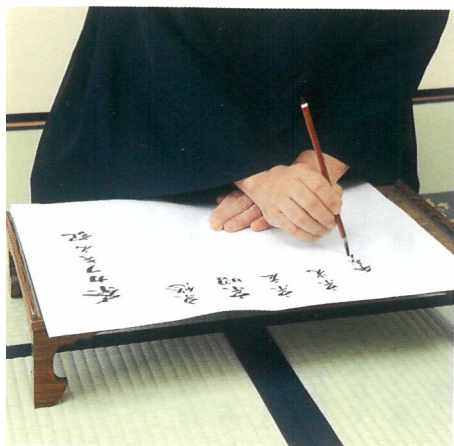


43 執筆者は、奉書上の硯箱を両手で持ち
45 蓋を取って文台の左横に置く



44 文台の右横におろす
46 二つ折りの奉書を右から左へ広げる

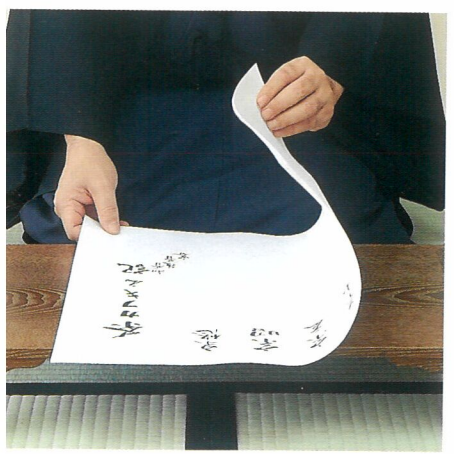




47 墨をする
48 奉書に「茶カフキ之記」と題字を書く
50 連客の名前、年月日、場所を書く



49 四客は茶をいただく茶碗を返す
51 「点茶」「執筆」と名前を書く



52 茶銘を書き終えると奉書を折る



そして、硯箱に蓋をして**53**、元のように奉書の上に硯箱を置き**54**、待ちます。点前座の亭主は茶碗が戻ると**55**、膝前に取り込んで、湯で二度すすぎ**56**、茶巾で茶碗を拭いて膝前に置き、茶杓、棗と取り、本茶の一服目の茶を入れ**57**、棗、茶杓と元に戻して**58**、湯を入れて濃茶を練ります**59**。練り上がると、茶碗の正面を正して定座に出します**60**。正客は右膝を立てて立ち、畳縁を右足で越して**61**、茶碗の前に座り、右手で取って**62**左掌にのせ、左膝を立てて立ちます。



55 試み茶二服目の茶碗が四客から戻る



53 硯箱に蓋をする



56 茶碗を湯で二度すすぐ



54 元のように奉書の上に硯箱を置く



60 茶碗の正面を正して定座に出す



57 本茶一服目の茶を茶碗に入れる



61 正客は畳縁を右足で越して進む



58 棗、茶杓と元の位置に戻す



62 茶碗の前に座り、右手で取る



59 湯を入れて濃茶を練る

正客は自席に左足から入って**63**座り、茶碗を次客との間に置き、本茶の一服目ですから、連客総礼をします**64**。亭主は正客の一睨で、服加減をたずね、正客は受け礼をします**65**。亭主は服加減をたずねると、試み茶のときと同じように、茶杓を水指の上に戻置きして**66**、本茶一服目の棗を右手で取り、長盆の上、元の位置に戻し**67**、二服目の棗を取って**68**、一服目の棗のあと、茶笥の左に置き**69**、水指上の茶杓を取り、棗の上に戻して入れ替えをし、茶碗が戻るのを待ちます。



63 正客は自席に左足から入る



64 茶碗を次客との間に置き、連客総礼



68 二服目の棗を取って

65 亭主は正客に服加減をたずねる



69 一服目の棗のあと、茶筌の左に置く

66 茶杓を水指の上に仮置きする



67 本茶一服目の棗を長盆に戻す



前号まで

本茶一服目の茶碗が出されると、正客は取りに出て、連客総礼をしていただきます。亭主は服加減をたずねると、一服目の棗のあとに二服目の棗を置いて、茶碗が戻るのを待ちます。

正客は本茶一服目の濃茶をいただくと、喫み口を清めて正面を正し、次客に茶碗を手渡しで送ります。

そして、縁外上座に重ねてある三枚の大折据おおひきすえのうち、「二」の大折据のみを両手で取り**1**、縁外正面に置きます**2**。

1 正客は「二」の大折据を両手で取り



2 縁外正面に置く



茶カブキ之式・風炉(四)

〔監修〕 千宗室

七事式の解説◆ ちやかぶきのしき

全六回・次号予定は「茶カブキ之式・風炉(五)」

正客は縁内右膝頭畳目五つにある帛紗を取り、左掌にのせて開き、中の名乗紙を出して**3**、今、いただいた本茶の一服目が何であるかを吟味して、これと思う茶師の名が書いてある名乗紙を切り離し**4**、残りの茶師の名乗紙を帛紗に戻してたたみ、帛紗を元の縁内右膝頭に置きます。切り離れた名乗紙を二つに折り、さらに縦に二つに折って**5**、一つひねり**6**、にぎり込んで、縁外正面の「一」の大折据を両手で開き**7**、名乗紙を中に入れ**8**、大折据を両手で持ち、次客に縁外で送ります。

次客も本茶の一服目をいただいて三客に茶碗を送り、正客から送られた大折据を縁外正面に直し、右膝頭の帛紗を取り、帛紗に挟んだ名乗紙を取って、いただいた本茶一服目のこれと思う茶師の名乗紙を取り、帛紗を元に戻します。名乗紙を同様に四つ折りにして一つひねり、大折据を開いて、名乗紙を



3 帛紗から名乗紙を出す

5 名乗紙を四つ折りにする

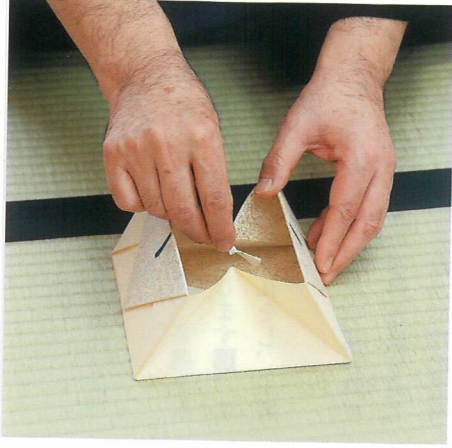


4 一服目の茶師の名乗紙を切り離す

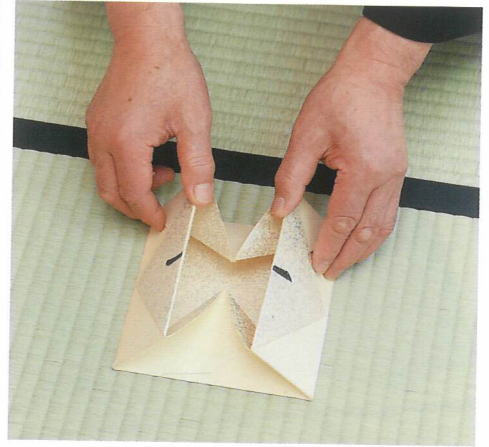
6 一つひねる



入れ**9**、大折据を両手で持って、三客に送ります。三客も同様に名乗紙を大折据に入れて四客に送ります**10**。末客の四客は本茶一服目をいただき、茶碗の喫み口を拭き清めると、正客との出合いで茶碗の正面を正して正客に渡し**11**、自席に戻ります。



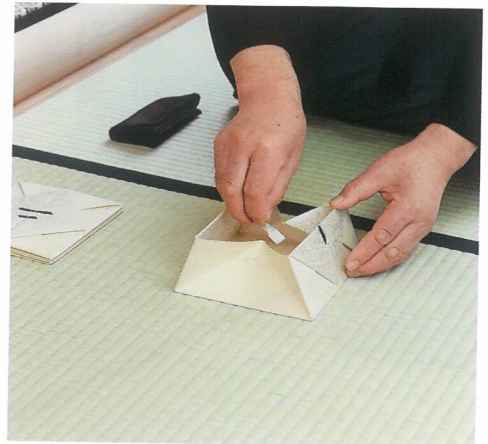
9 次客も名乗紙を大折据に入れる



7 大折据を両手で開く



10 三客も名乗紙を入れ、大折据を四客へ



8 名乗紙を大折据の中に入れる



11 四客は茶碗の正面を正し、正客に渡す

正客もその茶碗の正面を正して、定座に返し**12**、自席に戻ります。

亭主は正客が自席に戻ると、茶碗を取り、膝前に置いて一礼をします**13**。このとき、客座の四人も一礼をし、主客総礼となります**14**。

四客は総礼のあと、三客から送られていた「一」の大折据を縁外正面に直し**15**、同じように帛紗を取って中の名乗紙を取り、これと思う茶師を選んで、その名乗紙を切り離し、二つに折り**16****17**、さらに縦に二つに折って**18**、一つひねり**19**、大折据に入れて**20**、大折据を両手で取り、右向こう、左手前と持って回し、正面を正します。



13 亭主は茶碗を膝前に置き、一礼をする



12 正客も茶碗の正面を正し、定座に返す



14 客座の四人も一礼し、主客総礼となる



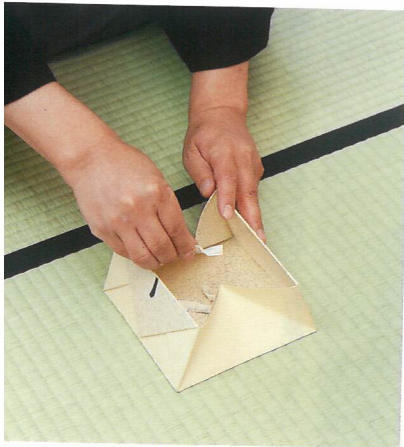
18 さらに縦に二つに折り

15 四客は大折据を取り、縁外正面に直す



19 一つひねって

16 帛紗から名乗紙を取り、これと思う茶師を選んで切り離し、二つに折る



20 大折据に入れる



四客が大折据の正面を正している頃、
 執筆者は硯箱を文台の右横におろし
21、蓋を取って文台の左横に置き、二
 つ折りの奉書を文台の上に広げて待ち
 ます。

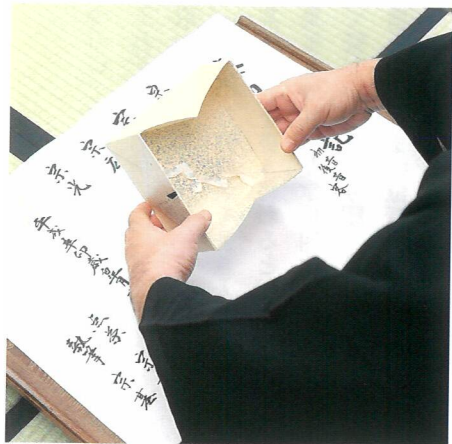
四客は大折据の正面を正すと、右膝を
 立てて**22**立ち、畳縁を右足で越して**23**、
 執筆者の正面に進んで座り、「一」の
 大折据を文台の右手前にのせて**24**、左
 膝を立てて**25**立ち、自席に戻ります。
 執筆者は大折据を両手で持って、奉書
 の上で開き**26**、さかさにして中の名乗
 紙を出し**27**、大折据を両手で左の硯箱
 の蓋の上ののせておきます**28**。

21 執筆者は硯箱を文台の右横におろす



22 四客は大折据を持ち、右膝から立つ





26 執筆者は大折据を両手で持って開く

23 畳縁を右足で越し、執筆者の前に進む



27 さかさにして中の名乗紙を出す

24 大折据を文台の右手前にのせる

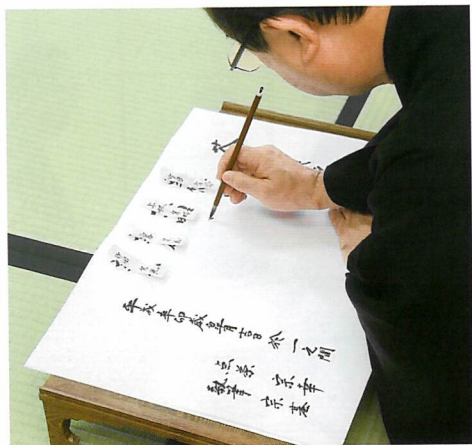


28 大折据を硯箱の蓋上に乗せておく

25 左膝を立てて立ち、自席に戻る



つづいて奉書の上の名乗紙を開いて、それぞれの名前の上に置き**29****30**、筆を取って、名前の下に連客が選んだ本茶一服目の茶師の名を書き入れます**31**。茶師の名を書き終わると、執筆者は名乗紙を取り、左掌に四枚重ね**32**、折って**33**、一つひねり**34**、硯箱蓋上の大折据をそのままの位置で開き、名乗紙を入れて**35**、大折据を閉じます。そして文台の上の奉書を二つに折り**36**、大折据をのせのまま硯箱の蓋を持って、硯箱に蓋をし**37**、奉書の上ののせて**38**、待ちます。



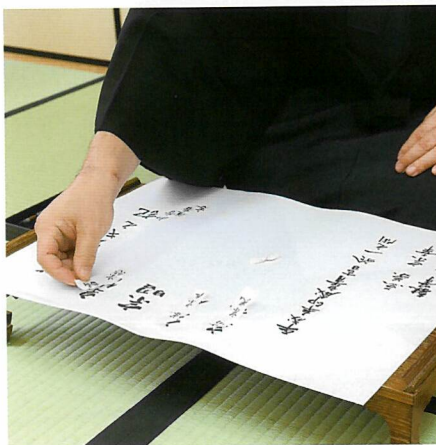
31 連客の名前の下に茶師の名を書く



29**30** 奉書の上にある名乗紙を開き、それぞれの名前の上に置く



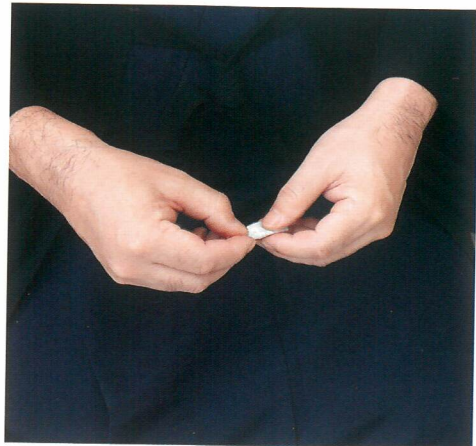
32 名乗紙を取り、左掌に四枚重ねる





36 文台の上の奉書を二つに折る

33 折って



37 大折据をのせたまま硯箱に蓋をする

34 一つひねる



38 硯箱を奉書の上ののせる

35 大折据を開き、名乗紙を入れる



亭主はその間、返された本茶一服目の茶碗に湯を汲んで入れ**39**、湯を建水にあけて**40**、もう一度湯を汲み茶碗に入れ**41**、こすすぎをして**42**、湯をあけ**43**、茶巾で茶碗を拭き清め**44**、茶巾を釜の蓋上に置きます。右手で茶杓を取り、本茶二服目の棗を左手で取って、蓋を右膝前に置き**45**、濃茶を三杓すくって茶碗に入れ**46**、残りの茶をかき出して茶碗に入れます**47**。茶杓を茶碗にあずけ、棗のかき出したところを指先で清め**48**、その指先を懐中の懐紙で清めて、棗に蓋をして柵前の茶筌と置き合わせ、茶杓を取り、茶をさばいて棗の上に戻します。



39 亭主は茶碗に湯を入れる



41 もう一度湯を汲み茶碗に入れる



40 茶碗の湯を建水にあける



42 こすすぎをする



46 濃茶を三杓すくって茶碗に入れ

43 湯を建水にあける



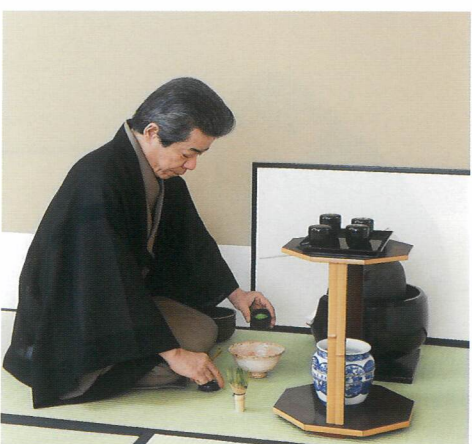
47 残りの茶をかき出して茶碗に入れる

44 茶巾で茶碗を拭き清める



48 かき出したところを指先で清める

45 本茶二服目の棗の蓋を右膝前に置く



亭主は湯を汲んで茶碗に入れ**49**、濃茶を練り**50**、茶筌を茶碗の左にあずけて、湯を汲んで、茶筌を左手に持ち、茶筌の穂先に注ぐようにして湯を入れ**51**、柄杓を釜にあずけて、練り返して、茶筌を棗と置き合わせ**52**、右手で茶碗を取って左掌にのせ、正面を正して**53**、本茶の二服目を定座に出します**54**。
 正客は本茶二服目の茶碗を取りに出て**55**、自席に戻り、次客との間、縁内に茶碗を置き、次礼つぎれいをして**56**、濃茶をいただきます**57**。
 亭主は正客の一口で服加減をたずねると、正客はこれを受けます。次客は三客に「お先に」と次礼をします**58**。



51 茶筌の穂先に注ぐように湯を入れる



49 湯を汲んで茶碗に入れる



52 練り返し、茶筌を棗と置き合わせる



50 濃茶を練る



56 次客との間に茶碗を置き、次礼をする



57 濃茶をいただく



53 茶碗を左掌にのせ、正面を正す



54 本茶二服目の茶碗を定座に出す



58 正客は挨拶を受け、次客は三客に次礼



55 正客は茶碗を取りに出る

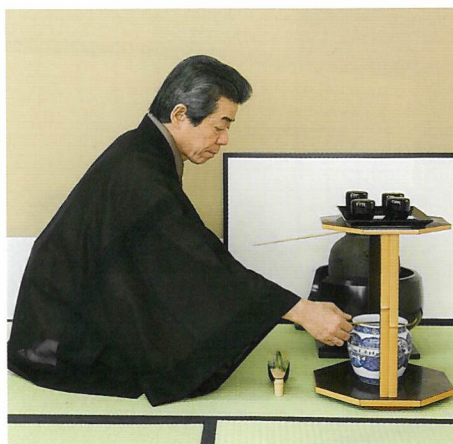
亭主は本茶二服目の棗の上の茶杓を取り**59**、水指上に仮置きして**60**、本茶二服目の棗を長盆の元の位置に戻し**61**、本茶三服目の棗をおろし**62**、水指上の茶杓を棗の上に置きます**63**。
 正客は本茶二服目の濃茶をいただき、次客に茶碗を手渡しで送ると、上座にある「二」の大折据を両手で取り**64**、縁外正面に置きます。本茶の二服目が何であるかを判断し、右膝頭の帛紗を取り、挟んである名乗紙を取って、本茶二服目のこれと思う茶師を選んでその名乗紙を切り離し**65**、四つ折りにして、一つひねり**66**、「二」の大折据に入れます**67**。



59 亭主は棗の上から茶杓を取る



61 本茶二服目の棗を長盆に戻す



60 水指の上に仮置きする

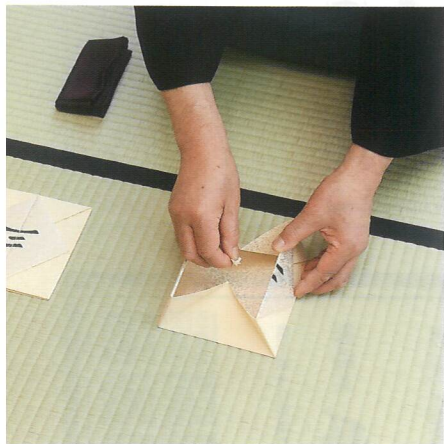


62 本茶三服目の棗を長盆からおろす



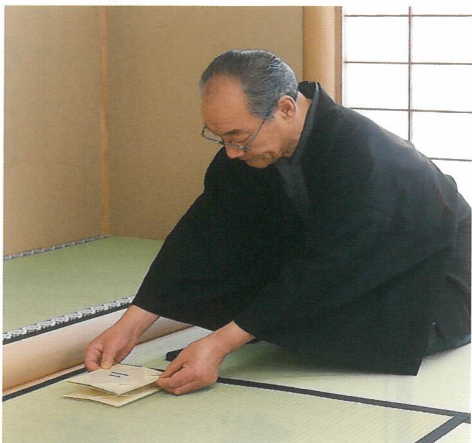
66 四つ折りにして、一つひねる

63 水指上の茶杓を棗の上に置く



67 大折据に入れる

64 正客は「二」の大折据を両手で取る



65 本茶二服目の茶師の名乗紙を選ぶ



前号まで

正客は本茶二服目の茶碗を次客に送ると、上座の「二」の大折据を正面に置き、帛紗に挟んでいる名乗紙から本茶二服目の茶師の名乗紙を選び、「二」の大折据に入れます。

正客は「二」の大折据おわおりすえを次客に送ると、

つづいて上座にある「三」の大折据

を正面に置きます**1**。本茶三服目は喫

まなくても分かれますので、右膝頭置

目五つに置かれてある帛紗を取って、

残った名乗紙なりのがみを取り出し、四つ折りに

して**2**ひねり、にぎり込んで「三」の

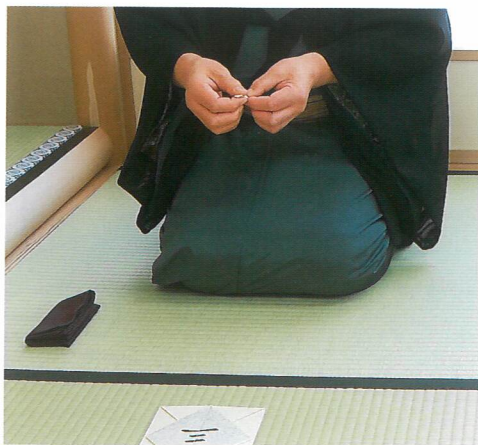
大折据に入れ、大折据を次客に送り、

帛紗を懐中します。

1 正客は「三」の大折据を正面に置く



2 本茶三服目の名乗紙を折る



茶カブキ之式・風炉 (五)

〔監修〕千宗室

七事式の解説 ◆ ちやかぶきのしき

全六回・次号予定は「茶カブキ之式・風炉(六)」

次客は本茶二服目をいただき、三客に茶碗を手渡しで送り、正客より送られていた「二」の大折据を両手で持ち、膝前正面に置きます。本茶二服目の茶師を選び、名乗紙を四つ折りにして、ひねり、「二」の大折据を開いて名乗紙を入れ、三客に縁外で送ります。つづいて正客と同様に「三」の大折据に名乗紙を入れ、三客へと送りま

す。
 三客も二服目をいただき、四客に茶碗を送ると、「二」の大折据を膝前正面に置いて、本茶二服目の茶師を選び、名乗紙を入れて、四客に送ります。
 四客が二服目をいただいている頃、正客は本来なら三服目の濃茶をいただくのを、すでに三服目は名乗紙が決まっているので、その三服目の濃茶をいただくに、湯を所望するかを連客にたずねておきます**5**。
 末客の四客は、試み茶こころと同様、本茶二



3 次客は「二」の大折据を両手で持つ

4 本茶二服目の名乗紙を入れる

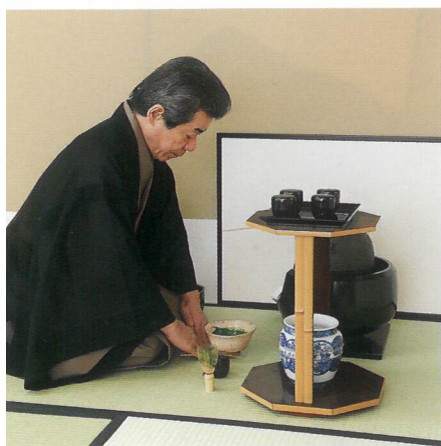


5 正客は三服目について連客にたずねる

服目の茶碗は出合いで返すことが無いので、茶をいただいで喫み口を清めると、茶碗の正面を正して持ち、右膝を立てて**6**立ち、茶碗を定座に返し、自席に戻ります**7**。
亭主は返された二服目の茶碗を取って**8**、膝前に置き、正客より「湯の所望」があるとこれを受けます**9**。



6 四客は茶碗を持ち、右膝から立つ
.....
8 亭主は本茶二服目の茶碗を取る



.....
7 茶碗を定座に返し、自席に戻る
.....
9 正客から「湯の所望」があれば受ける



四客は自席に戻ると、三客から送られてくる「二」の大折据を両手で取って、正面に置き、帛紗を取り、挟んである名乗紙から二服目の名乗紙を選び、四つ折りにしてひねって大折据に入れ、縁外下座に置きます**10**。つづいて「三」の大折据を正面に直して**12**、残った名乗紙を入れ**13**、帛紗を懐中して、下座の「二」の大折据を持ち**14**、「三」の大折据に重ねて**15**両手で持ち、右向こう、左手前と持って回し、正面を正します。

四客が大折据の正面を正している頃、執筆者は硯箱を文台の右におろし**16**、「二」の大折据をのせたまま硯箱の蓋を取って、文台の左に置き**17**、二つ折りの奉書を広げて**18**、待ちます。

10 四客は「二」の大折据を両手で取る



11 名乗紙を入れ、縁外下座に置く

12 「三」の大折据を正面に直す





16 執筆者は硯箱を文台の右におろす

13 名乗紙を大折据に入れる



17 硯箱の蓋を取り、文台の左に置く

14 下座にある「二」の大折据を持ち



18 二つ折りの奉書を広げて待つ

15 「三」の大折据に重ねる



四客は正面を正した「二」「三」の大折据を重ねて持ち、執筆者の正面に進んで座り、大折据二枚を奉書の右手前に置き**19**、自席に戻ります。

執筆者は「一」の大折据と同じく、まず「二」の大折据を両手で持って、奉書の上にかけて中の名乗紙を出し**20**、「二」の大折据を硯箱の蓋上、「一」の大折据の上に重ね**21**、名乗紙を開いて、それぞれの名前の上に置き**22****23**、筆を取り、名前の下、二段目に連客が選んだ茶師の名を書き入れ**24**、四人の名乗紙を取り、重ねて折り、ひねって**25**、「二」の大折据に入れます**26**。



19 四客は大折据二枚を奉書の上に置く



20 執筆者は「二」の大折据を開ける



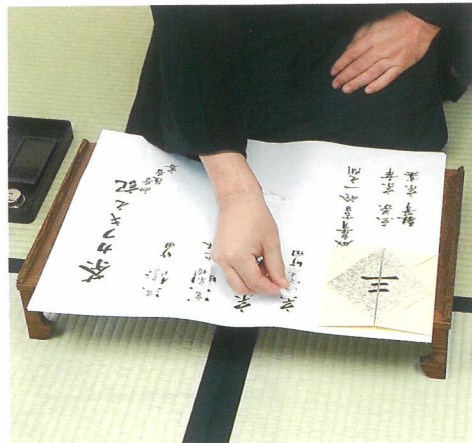
24 連客が選んだ茶師の名を書き入れる



21 「二」の大折据を蓋上の「二」に重ねる



25 名乗紙四枚を重ねて折り、ひねって



22 23 名乗紙を開いて、それぞれの名前の上に置く



26 「二」の大折据に入れる



つづいて、「三」の大折据も同じように両手で広げて**27**開け、中の名乗紙を出して**28**、「二」の大折据に重ねます。名乗紙を開いて**29**、それぞれの名前の上に置き**30**、三段目に茶師の名を書いて**31**、名乗紙を四枚重ねて**32**折り**33**、ひねって**34**、「三」の大折据に入れ、その「三」の大折据を文台の奉書手前中央に置きます。



27 「三」の大折据も同様に両手で広げ

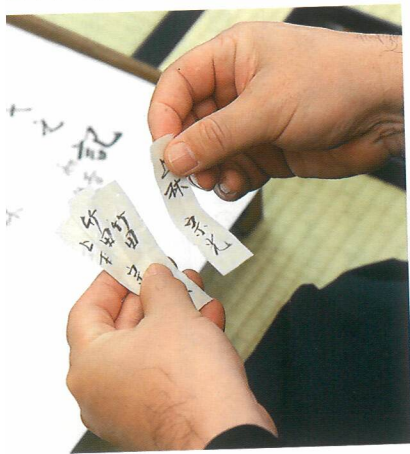


28 奉書の上に名乗紙を出す

29 名乗紙を開く



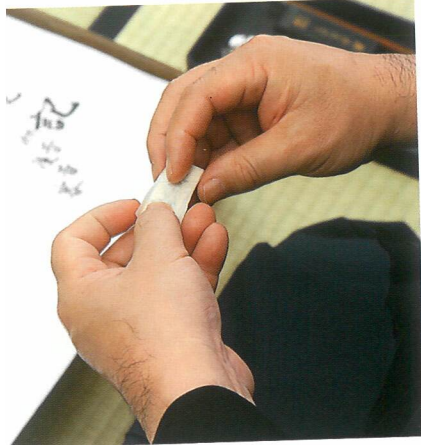
32 名乗紙を四枚重ねて



30 それぞれの名前の上に置く



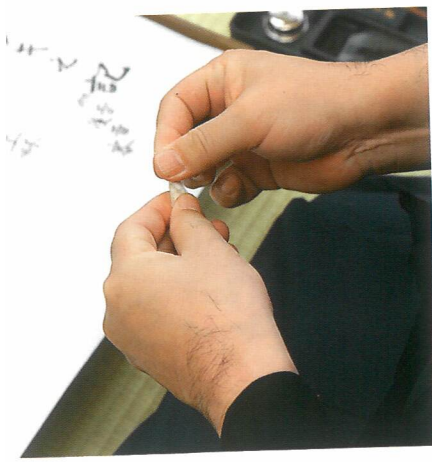
33 折り



31 本茶三服目の茶師の名を書く



34 ひねって「三」の大折据に入れる



執筆者は、硯箱の蓋上から「二」の大折据を取って、奉書手前中央の「三」の大折据に重ね**35**、つづいて「一」の大折据を「二」の大折据の上に重ねて**36**持ち、硯箱の蓋の上に戻し**37**、文台上の奉書を二つ折りにして**38**、三つの大折据を重ねたまま硯箱の蓋を閉め**39**、奉書の上のせて**40**待ちます**41**。



35 「二」の大折据を「三」に重ねる



36 「一」の大折据を「二」に重ねる



37 三枚重ねて持ち、硯箱の蓋の上に戻す



38 文台上の奉書を二つ折りにする

執筆者の役割と心覚え

茶カブキ之式において、執筆者は式の記録を取る役です。そのはじめの方の動きを大まかに申しますと、亭主が柄杓を蓋置に引き、総礼がすむと、文台を持って席入りし、定座で控えています。正客の本茶所望の挨拶で硯箱を開け、墨をすって記録を書き始めます。終わると奉書を二つ折りにして硯箱をのせ、再び控え、四客が名乗紙を大折据に入れて大折据の正面を正しはじめると、硯箱を

おろし、奉書を広げて待ち、大折据を四客から受けると、すみやかに名乗紙を開いて茶師名を書き入れ、書き終わるとすぐ奉書を二つ折りにします。これは茶師名を書き始めると、客は点前ではなく、執筆者の筆先に目がいきがちになることもあるからです。茶カブキ之式を滞りなく進めるために、四客が大折据を持って来る直前に奉書を開き、記録を書き終わるとすみやかに奉書を二つに折るように心がけなければなりません。

39 大折据を重ねたまま硯箱に蓋をする



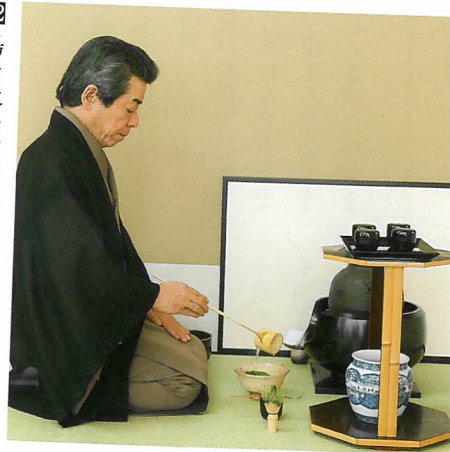
40 奉書の上ののせて



41 待つ



この間、亭主は正客からの湯の所望に受け礼をすると、湯を汲んで茶碗に入れ**42**、建水に湯をあけ**43**、もう一度湯を汲んで茶碗に入れ、こすすぎをして**44**建水に湯をあけ**45**、茶巾で茶碗を拭き清め**46**、茶巾を釜の蓋上に戻します。もう一度湯を汲んで茶碗に入れ**47**、建水にあげて**48**、茶巾で拭かず茶碗を膝前に置き、湯を汲んで適量を茶碗に入れ**49**、残りを釜に戻して切柄杓をし**50**、茶碗の正面を正して、湯の入った茶碗を定座に出します**51**。



42 湯を汲んで茶碗に入れる



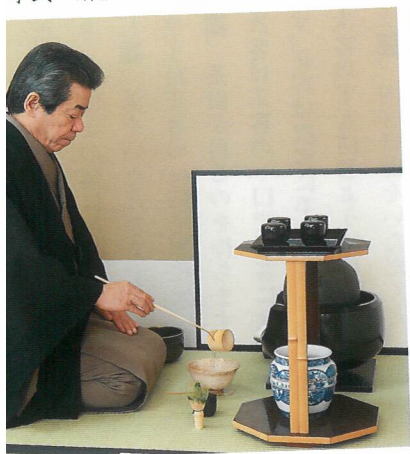
44 もう一度湯を入れて、こすすぎをする



43 建水に湯をあける



45 建水に湯をあける



49 湯を汲んで適量を茶碗に入れる

46 茶巾で茶碗を拭き清める



50 残りを釜に戻して切柄杓をする

47 さらに湯を汲んで茶碗に入れる



51 三服目の茶碗(今回は湯)を出す

48 建水に湯をあける



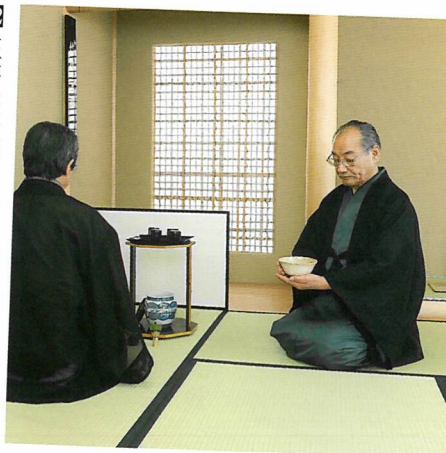
正客は茶碗を取りに出て**52**、自席に戻り、次客との間に茶碗を置いて次礼をし**53**、湯をいただきます。

亭主は正客の一口で釜に水一杓をさし**54**、茶碗が戻るのを待ちます。

次客は正客の一口で三客に次礼をします。正客は次客に手渡しで茶碗を送り、次客以下も同じようにして湯をいただきます**55**、四客は湯をいただくと、本茶三服目は最後ですので、正客との出合いで茶碗を返します**56**。

亭主は茶碗を膝前に取り込むと一礼をし**57**、連客も総礼をして**58**主客総礼となります。

亭主は湯を汲んで茶碗に入れ**59**、建水に湯をあけます**60**。



52 正客は茶碗を取りに出る



54 亭主は釜に水一杓をさす



53 次客との間に茶碗を置き、次礼をする



55 次客以下も同じように湯をいただく



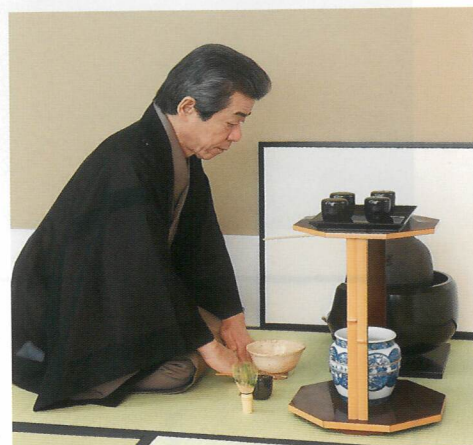
59 亭主は湯を汲んで茶碗に入れる

56 本茶三服目の茶碗を出合いで返す



60 建水に湯をあける

57 亭主は茶碗を膝前に取り込み、一礼



58 連客も総礼をして主客総礼となる

